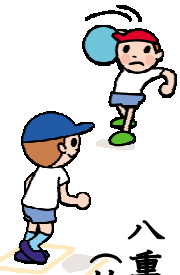


これからの体育はどうなるの・・・



八重山地区小学校体育研究会会長
(竹富町立上原小学校学校長)

吉濱 剛

八重山地区小体研は、昨年、平真小学校を会場にフットボールの公開授業を行い、その後の授業研究会においても活発な意見交換があり、系統的な体育指導のあり方が課題として浮かびあがる等、有意義な研究会となりました。

ところで、今年度はどの研究大会に参加しても、来年度から始まる新学習指導要領の説明及び小学校では次年度から始まる移行期への対応をどう進めるかについての講演が中心になっています。

今回の改訂の趣旨説明の中で、小学校から高校までを4..4..4に分けて指導要領を編成した経緯について話されていました。小1～4年の4年間を運動の基本を中心に置き、小5～中2までを運動種目に触れる機会とし、中3～高3までを選択してマイスポーツをつくり生涯スポーツにつなげていくという系統性が重視されました。
現在私たちが行っている

体育が何を育てようとしているのか、教師としての理念や理論をもち、実践していく気概が欲しいものです。

各学校においては、次年度に向けて教育課程の準備を進めているところですが、新学習指導要領の趣旨を生かして、次年度に向けて年間指導計画に反映していく必要があります。

子どもたちは、体育が好きです。だからこそ、授業の中に子どもをイメージして、体育の特徴である体を通しての対話で、友達とかかわる楽しさを味わい、進んで運動をしたがる子を育てる授業を創造していきましょう。

近日開催！ 「定期総会」

期日等は後日お知らせします。

実技講習会スナップ



昨年、平真小学校において、本会会員(理事長)の高木健一朗先生が、六年生児童三十五名を対象に「フットボール」の授業を公開してくれました。本学年で初めて本種目に出会った児童ということでしたが、簡単なルールや作戦を話し合いによって主体的に創り上げ、それらにもとづいてパスゲームを思い存分に楽しんでいる様子が伝わってくる授業でした。



公開研究授業 フットボール

① チームのめあてと自己のめあての設定

作戦(チーム)と戦術(自己)を意識し、主体的に練習やゲームに取り組ませるようにする。さらに、チーム・自己のめあてを設定させ、自己のめあて達成とゲームにおける充足感が一致するようにさせたい。

② 他教科とのかわり(作戦会議)

作戦を立て、その成功に向け練習し、作戦の成功を味わうことで運動の楽しさを感じ取る特性を持つ種目であることから、作戦会議の時間がとても重要な位置を占める。しかし、本教科の中だけで行っ

うと運動量の減少につながるため、休み時間、昼休み、放課後の時間を有効に活用させたい。

このように指導の留意点「が示していることをベースに授業研究会ではいくつかの検証がおこなわれました。中でも、本時において子ども達が授業を進めていく中で、いくつかの学習カードがうまく機能し、めあて学習がスムーズに展開されていたということが冒頭確認されました。

さらに、毎時間の学習に入る前に、作戦会議(話し合い)が持たれていることから、ゲームにおいては、「ムドル」と呼ばれるオフフェンスの合間に取る短い作戦確認タイム(三十秒以内)のみでの戦術・作戦確認でゲームを進めていくことになっていたことから、六年生の体力を充足させる分の運動量を確保できていたということ等も話し合われました。

また、フットボールは、ハドルを介して仲間とのかかわりを持ち、すべての児童が得点する喜びを味わえる種目で、さらにはボール運動の戦術学習をより効果的に進めていくことのできる種目であるということ等も確認されました。課題として挙げられたことの「一つに、ボール運動においても、投げ・捕る、交わす」等の基本的な動きに関して、低学年から系統的に指導を展開することで、より大きな成果を得ることができるのではないかと、いうようなことがありました。

そこで移行期を含め、平成二十三年度の学習指導要領完全実施をにむけて改善点等を確認し、指導内容の系統性を再認識した上で、体育学習の充実に向け研究を進めていくこと等を確認し、会を閉じました。

新学習指導要領改訂の主な改善点

【第1に】これまであいまいに示されてきた各運動領域の学習内容が明確に示された。新学習指導要領の解説書には、特に運動技能の内容にかかわって、身に付けるべき「動きの様相」に踏み込んで具体的に示している。

◇体育科運動領域

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体 っ く り 運 動		
	器械・器具を使つての運動遊び	器 械 運 動	
域	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水 遊 び	浮く・泳ぐ運動	水 泳
	ゲ ー ム		ボ ー ル 運 動
	表現リズム遊び	表 現 運 動	
		保 健	

◇領域内容と構成

1年	2年	3年	4年	5年	6年
【体づくり運動】					
体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動	体力を高める運動	体力を高める運動
【器械・器具を使つての運動遊び】		【器械運動】			
固定施設を使った運動遊び					
マットを使った運動遊び		マット運動		マット運動	
鉄棒を使った運動遊び		鉄棒運動		鉄棒運動	
跳び箱を使った運動遊び		跳び箱運動		跳び箱運動	
【走・跳の運動遊び】		【走・跳の運動】		【陸上運動】	
走の運動遊び		かけっこ・リレー 小型ハードル走		短距離走・リレー ハードル走	
跳の運動遊び		幅跳び 高跳び		走り幅跳び 走り高跳び	
【水遊び】		【浮く・泳ぐ運動】		【水泳】	
水に慣れる遊び		浮く運動		クロール	
浮く・もぐる遊び		泳ぐ運動		平泳ぎ	
【ゲーム】			【ボール運動】		
ボールゲーム		ゴール型ゲーム		ゴール型	
鬼遊び		ネット型ゲーム		ネット型	
		ベースボール型ゲーム		ベースボール型	
【表現リズム遊び】		【表現運動】			
表現遊び		表現			
リズム遊び		リズムダンス		フォークダンス	
【保健】					
毎日の生活と健康		育ちゆく体と心		病気の予防	
		たし		けがの防止	

【第2に】上記の学習内容の確実な習得を保障するために、2年間のユニットで学習内容をゆとりを持って学習できるようにした。

【第3に】体力の慢性的低下傾向に歯止めをかけるため、体育科の授業時数が15時間増加された。「体づくり運動」が低学年段階から導入されることになった。すべての運動領域で体力の向上を図ることが求められている。

低学年：「多様な動きをつくる運動」「体ほぐし運動」
 高学年：「体力を高める運動」「体ほぐしの運動」

【第4に】これまででは、ボール運動を「バスケットボール型ゲーム」「サッカー型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」で構成していたが、種目固有の技能ではなく、攻守の特徴（類似性・異質性）や「型」に共通する動きや技能を系統的に身に付けるという視点から種目を整理し、「ゴール型ゲーム」「ネット型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」で構成されるようになった。多種多様なボール運動の中から体育科の教材としてどの種目を評価して学ばせるのか、ボール運動全体を通して何を学習させ、何を習得させるのかが問われている。そこで、ルールや戦術に着目した分類論になった。

「ボールを操作する技能」(on the ball skill)の観点から見ると、球技はすべて異なっていて、それぞれに特殊な技能が必要になる。しかし、「ボールを持たない動き」(off the ball movement)に着目すると、少なくとも下表の 카테고リーに属する球技の関連性は深く、種目を超えて動き方の転移が生じるといわれている。例えば、ハンドボールの上手な者はサッカーやバスケットボールでも高いゲームパフォーマンスを発揮する。将来の学校体育では、このような分類に基づき、さらに子どもの発達段階に即してやさしい球技から難しい球技へと順に位置づけ、学習させていく必要がある。

1 侵入系

- ゴール型：サッカー、ハンドボール、バスケットボールなど
- 陣取り型：アメリカンフットボール、フラッグフットボール、ラグビーなど

2 ネット・壁系

- 攻防一体型：テニス、卓球、バドミントンなど
- セット型：バレーボール、セパタクロ、プレルボール、フェストボールなど

3 フィールド系

- 野球、ソフトボール、クリケットなど

4 ターゲット系

- ゴルフ、ボーリング、カーリングなど

低学年：ゲーム(ボールゲーム)

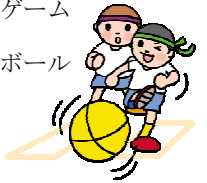
ボールゲームとは、簡単なボール操作の「ボール遊び」と簡単な規則で行われる「ボール投げゲーム」、「ボール蹴りゲーム」をいう。

【ボール投げゲームの例示】

- ボールを転がしたり、投げたりする的当てゲーム
- 的当てゲームの発展したシュートゲーム
- ボールを転がしたり、投げたりするドッジボール

【ボール蹴りゲームの例示】

- ボールを蹴って行う的当てゲーム
- 的当てゲームの発展したシュートゲーム
- ボールを蹴って行うベースボール
- ・ねらったところに緩やかにボールを投げたり、転がしたり、蹴ったりすること。
- ・ボールを捕ったり止めたりすること。
- ・ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ること。
- ・ボールを操作できる位置に動くこと。



中学年：いろいろな易しいゲームを例示している。(ゴール型↓)

- ハンドボール、ポートボールを基にした易しいゲーム(手を使った)
- ラインサッカー、ミニサッカーなどを基にした易しいゲーム(足を使った)
- タグラグビーやフラッグフットボールを基にした易しいゲーム(陣地を取り合うゴール型ゲーム)

- ・ボールを持ったときにゴールに体を向けること。
- ・味方にボールを手渡したり、パスを出したりすること。
- ・ボール保持者と自分の間に守備者がいないように移動すること。

高学年：簡易化されたゲーム

ルールや形式が一般化されたゲームを児童の発達段階を踏まえ、プレーヤの数、コート広さ、プレー上の制限等などゲームのルールや様式を修正し、学習課題を追求しやすいうように工夫したゲームをいう。

- バスケットボール ○サッカー ○ハンドボール

- タグラグビー・フラッグフットボール
- ・近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。
- ・相手にとられない位置でドリブルすること。
- ・ボールを保持する人と自分の間に守備者を入れないように立つこと。
- ・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをする事。
- ・ボールを保持する人とゴールの間に体を入れて相手の得点を防ぐこと。



【第5に】保健領域では、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視して、指導内容が改善された。

◎習得・活用・探求型の学習

学習した内容をすべての子どもに確実に習得させるには、基礎的・基本的な内容を共通に学習させる必要がある。共通課題のもとで完全習得学習を進めるとともに、習得した能力を活用し、個々人の興味や能力に応じて発展的に学習を進めることが望まれる。ちなみに体育学習の場合、頭で理解したことを体で習得する学習、身に付けた能力を活用する学習、さらに自ら課題を見つけて探求的に進める学習が、統合的に行われることがすくなくないため、習得・活用探求という学習のテーマをどのように展開すべきか、今後大きな課題となる。